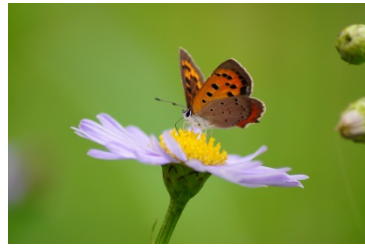


園内に咲く四季折々の花や色とりどりの実、季節を告げる生きものなどの自然の情報を、季節をおってお届けします。
今回は蝶・蛾です。尚、バックナンバーは(公財)仙台市公園緑地協会ホームページ「杜のひろば」よりダウンロードできます。



アゲハ (ナミアゲハ) (揚翅蝶)
幼虫の食草は、サンショウウオやカタタチ、ミカンなどのミカン科の植物。葉1枚に1個の卵を産む。



ベニシジミ (紅小灰蝶) 地面近くをすばやく飛ぶが、すぐに花や葉にとまる。翅は半開し、眠るときは閉じる。幼虫の食草はスイバやギンギン。幼虫で越冬する。シジミチョウでは一番普通に見られる。



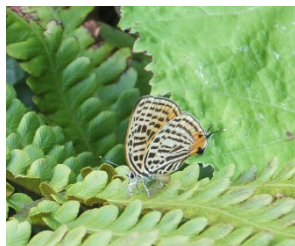
サカハチチョウ (逆八蝶) 春型と夏型では色彩などが全く違う。これは夏型。日本ではほぼ全土に分布。幼虫の食草はアソノやイラクサ。サナギで越冬する。



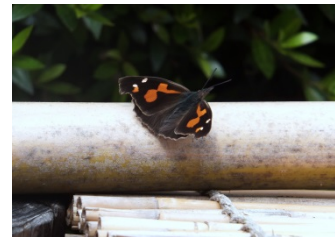
ウスタビ (薄足袋蛾) 成虫は年一回発生し、秋遅くにあらわれる。幼虫の食草はケヤキやクスギ。マユはカマス形で、黄緑色をしていて冬に目立つ。



ミヤマカラスアゲハ (深山烏揚翅蝶)
メスは後ろ翅(はね)に赤い紋がある。翅のへりに細い白線があるのが特徴。サナギで越冬する。



ウラナミアカシジミ (裏波赤小灰蝶)
幼虫は緑色で、背中に褐色のスジがある。年に一回発生する。幼虫の食草は、クスギやコナラ。



テングチョウ (天狗蝶) 5月~7月にあらわれ、夏には休眠して、秋に再び活動して冬眠する。食草はエノキなど。口ひげが長く突き出している。



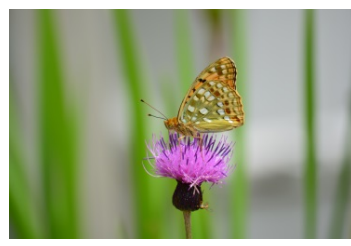
アゲハモドキ (揚羽擬蝶) ジャコウアゲハの雌とそっくりだが、ジャコウアゲハよりだいぶ小さく、触角が両端(くし)歯状になっているので判別し易い。



キアゲハ (黄揚翅蝶) アゲハより日当たりのよい草地を好む。幼虫は主にニンジンやパセリなどのセリ科の植物を好むことが多い。



ウラギンシジミ (裏銀小灰蝶)
活発に飛び回るので、飛んでいるときも翅(はね)裏の銀白色が目立つ。幼虫はマメ科植物の花や蕾を食べる。



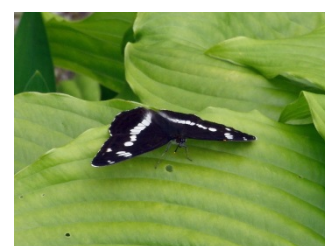
ウラギンヒョウモン (裏銀豹紋)
成虫は明るい草原で見られ、アザミに集まることが多い。幼虫の食草はスミレ類。卵、もしくは1齢幼虫で越冬する。メスの方が大型。



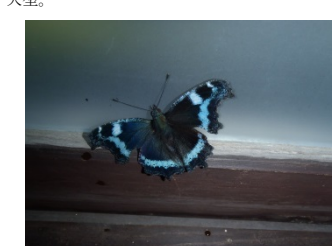
シロシタホタルガ (白下蛭蛾)
黒地に1本の太い白帯がある蛾。頭部は赤色。幼虫の食草はサワフタギ。幼虫はカラフルな模様をしている。



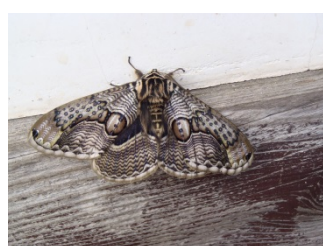
アサギマダラ (浅黄斑蝶) 飛ぶ力が強く遠くまで運ばれることがある。幼虫は毒のあるガガイモ科の植物を食べ、外敵に襲われることが少ない。園内でもまれに見ることができる。



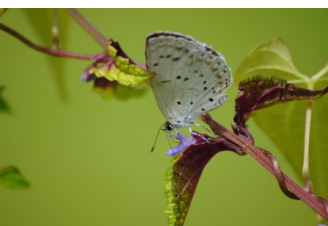
イチモンジチョウ (一文字蝶)
メスの方が大きい。三齢幼虫で越冬する。幼虫にはトゲトゲがある。成虫は林周辺にすみ、すばやく飛ぶ。白い花に集まる。



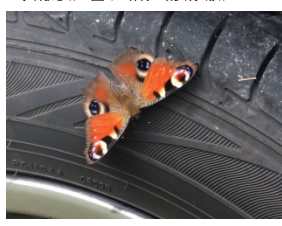
ルリタテハ (瑠璃立羽) 春早くから、秋遅くまで見ることができる。瑠璃色の細線が美しい。飛び方は素早い。タテハチョウの仲間、翅(はね)の縁がボロボロに見えるものが多い。



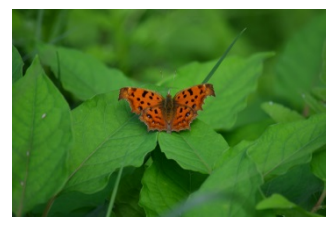
イボタガ (水蠟蛾)
大型の蛾。眼状紋(=両目)と腹部(=くちばし)でフクロウ顔を作り驚かせていると思われる。サナギで越冬する。



ルリシジミ (瑠璃小灰蝶) 日本全土に普通に分布する。裏の模様は目立たないが、表は瑠璃色で美しい。成虫は年に数回発生する。園内では4月~9月ごろまで見られる。サナギで越冬する。



クジャクチョウ (孔雀蝶)
翅(はね)の裏は枯葉のように地味だが、表は名前の通り美しい。植物園周辺では年に1回発生。成虫で越冬する。別名:クジャクタテハ。



キタテハ (黄立羽)
日当たりの良い荒地に多い。春は花・夏は樹液・秋は果実によく集まる。日本全土に分布し、成虫で越冬する。



オオミズアオ (大水青)
大型の青白色をした蛾。外灯に誘われて飛んでくる。サナギで越冬する。幼虫は緑色の芋虫型。